

2025年度 公益財団法人日本水泳連盟インターナショナル・ナショナル選手標準記録について（補遺）

2024年12月
競泳委員会

- 1 インターナショナル選手標準記録（以下「インター」）のうち、国際的な強化基準である「インターS」、「インターA」、「インターB」については、既に発表済みの「2025年度 国際大会派遣標準記録」（2021年～2024年の五輪・世界選手権の最高タイムを基に作成）に定める「派遣S・1位」（＝インターS）、「派遣I・3位」（＝インターA）、「派遣II・8位」（＝インターB）を採用している。
国内向けの強化基準であるインターCについては、原則として、同様に16位の記録とシンガポール世界選手権Aとの記録を比較し、速いほうの記録を採用している。（一部の種目を除く）
- 2 2028年ロサンゼルス五輪候補選手の発掘と育成のための基準として、「インターC」の記録との比率を参考に設定した「大学生エリート標準記録」を新設する。
ただし、この記録の設定は恒久的なものではなく、2026年開催予定のパンパシフィック選手権及びアジア大会に向けた、数年限定の集中したものとして設定する。なお、この記録を適用する範囲として、現段階では、2025年度下期の水泳連盟強化事業（合宿）への参加基準（NTC及びJISS施設利用を含む）及び自己負担金額の設定等に限定するものとする。
- 3 Jr.エリート選手標準記録は、過去3大会の世界ジュニア選手権決勝6位の最高タイムを基に作成している。（一部の種目を除く）
- 4 ナショナル選手標準記録は、「インターB」の記録との比率を参考に設定している。

【競泳委員会からのメッセージ】

- ① Jr.エリート標準記録およびナショナル標準記録（中2、1）は「リレー強化対策として100m自由形及び200m自由形の記録の見直しを行ったので、多くの選手が突破し日本代表に繋がって欲しい。」
- ② 1500m自由形をはじめとする長距離のナショナル標準記録（中2、1）は、現在、全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技大会参加標準記録の設定が高く、また、ナショナル標準記録の対象大会も限定されているが、今後はこれを見直すことも検討しつつ、「強化の現場でも“毎年”選手を育てる努力をして欲しい。」